

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2024年5月24日）

### ■第1版 第2刷（2024年4月10日発行）の更新箇所

※第1刷からの修正箇所は[https://www.yodisha.co.jp/correction/9784758123846\\_corrections.pdf](https://www.yodisha.co.jp/correction/9784758123846_corrections.pdf) をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第5章04 骨盤内炎症性疾患（PID）					
p470	表1 日本のPIDの診断基準	<p>以下のような基準で診断する。</p> <p>1. 必須診断基準(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下腹痛, 下腹部圧痛</li> <li>・子宮, 付属器の圧痛</li> </ul> <p>2. 付加診断基準および特異的診断基準(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体温<math>\geq 38.0^{\circ}\text{C}</math></li> <li>・白血球増加</li> <li>・CRPの上昇</li> <li>・経膈超音波検査やMRIによる膿瘍像確認</li> </ul> <p>[推奨レベル]A:実施すること等を強く勧める。B:実施すること等が進められる</p>	<p>以下のような基準で<b>鑑別診断にPIDを考慮し, 精査する。(B)</b></p> <p>1. 問診</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>症状の程度, 性状, 経過</b></li> <li>・<b>性的活動性, 直近の子宮内操作, 妊娠の可能性</b></li> <li>・<b>子宮内膜炎などの産婦人科的基礎疾患や性感染症の既往歴</b></li> </ul> <p>2. 必須診断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下腹痛, 下腹部圧痛</li> <li>・子宮と付属器の圧痛</li> </ul> <p>3. 付加診断基準および特異的診断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体温<math>\geq 38.0^{\circ}\text{C}</math></li> <li>・白血球増加</li> <li>・CRPの上昇</li> <li>・経膈超音波検査やMRIによる膿瘍像確認</li> <li>・<b>原因微生物の培養もしくは抗原検査, 遺伝子診断による同定</b></li> </ul>	ガイドライン改訂に伴う更新	24/05/24
p470	表2 入院を検討するPID	<p>①外科的な緊急疾患(虫垂炎など)を除外できない<b>症例</b></p> <p>②妊婦</p> <p>③経口抗菌薬が無効または<b>効果が乏しい症例</b></p> <p>④経口抗菌薬投与が不可能な<b>症例</b></p> <p>⑤悪心・嘔吐や高熱を伴う<b>症例</b></p> <p>⑥卵管卵巣膿瘍や骨盤内腫瘍を伴う<b>症例</b></p>	<p>①外科的な緊急疾患(虫垂炎など)を除外できない<b>患者</b></p> <p>②妊婦</p> <p>③経口抗菌薬が無効または<b>効果が乏しい患者</b></p> <p>④経口抗菌薬投与が不可能な<b>患者</b></p> <p>⑤悪心・嘔吐や高熱を伴う<b>患者</b></p> <p>⑥卵管卵巣膿瘍や骨盤内腫瘍を伴う<b>患者</b></p>	ガイドライン改訂に伴う更新	24/05/24
p472	文献4	「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 <b>2020</b> 」(日本産科婦人科学会, 日本産婦人科医学会/編), 日本産科婦人科学会, <b>2020</b>	「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 <b>2023</b> 」(日本産科婦人科学会, 日本産婦人科医学会/編), 日本産科婦人科学会, <b>2023</b>	ガイドライン改訂に伴う更新	24/05/24